

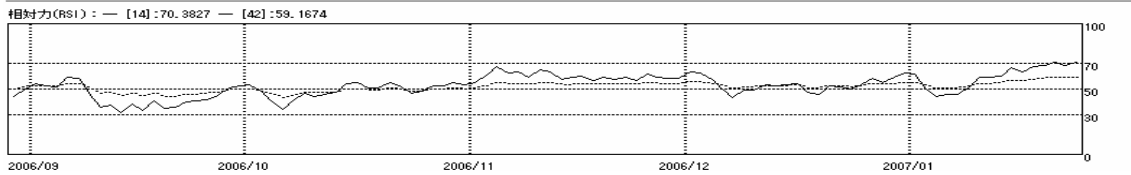
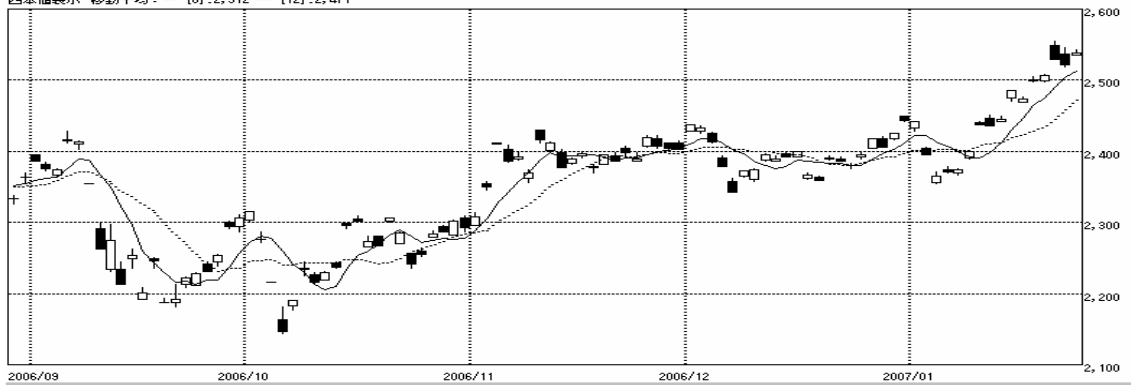
WEEKLY HOTLINE

OKACHI

2007年01月29日号

【金】 円高リスクも強含み

東京金 日足 先限:07/12 表示期間:(2006/08/30~2007/01/26)
2007/01/26 始値:2,537 高値:2,543 安値:2,535 終値:2,538 前日比:+15 出来高:34,708
四本値表示 移動平均: — [6]:2,512 — [12]:2,471



◆海外情勢

ニューヨーク金は本格的に上昇気流に乗ったように見える。周辺環境も金価格の強気に見方している。資金流入の根源でもあるユーロは上値追いが鮮明になりつつある。鉱山株価も軒並み上昇基調を強めはじめており、なかには大きく値を飛ばしはじめているものさえある。英調査会社GFMSのポール・ウォーカー最高経営責任者は、ドル安で金の需要が高まるため、今年上半期には最大670ドルを予想。

◆内部要因

ニューヨーク市場は安値での実需買い増加で、当業者の売り物が積み上がりにくく、一方の投機資金の流入分に関しては、市場外、つまり、ETFや鉱山株など側面からのアプローチが多く、なかなか過熱し難いところが好感される。先行するという点では、ニューヨーク銀のファンド買いが増加してこないことも良い傾向といえる。東京市場は圧倒的な自己売り維持から急激に変化してきていることが注目される。

◆総合分析

東京金は上昇に弾みがついてきて良い頃合いとなってきた。しかし、一昨年末の反省からか投機人気は盛り上がりせず、むしろ値惚れて売る向きも多いという。ドル建て価格が606ドルで大口資金を巻き込み、先行き3月にはインドでのETF上場を控えている。円高リスクが高まっているが、週足など長めのチャートが弱くみえないのは、ドル建て金価格の上値余地がそれだけ大きいということだろうか。

このレポートは情報提供を目的としています。売買の判断はお客様ご自身で行って下さい。

CS-0881

岡地株式会社

●編集・営業企画部

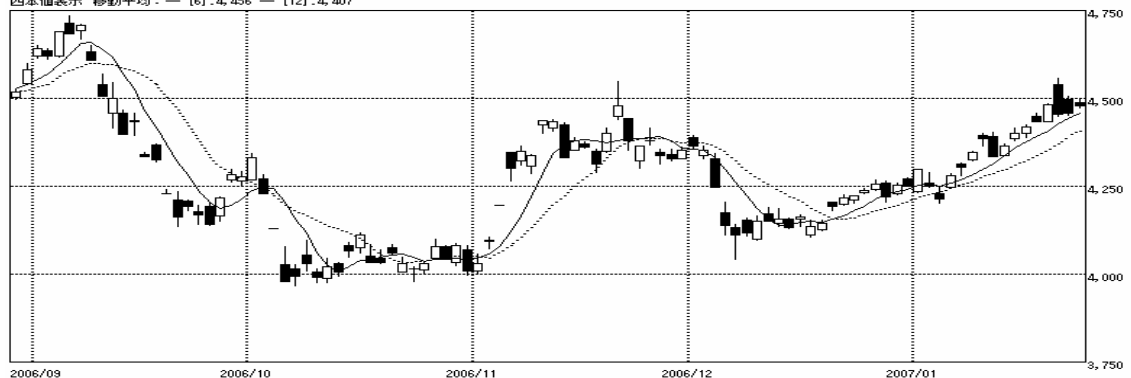
〒103-0018 東京都中央区日本橋小網町12-5 TEL.(03)3687-7511代

HOTLINE

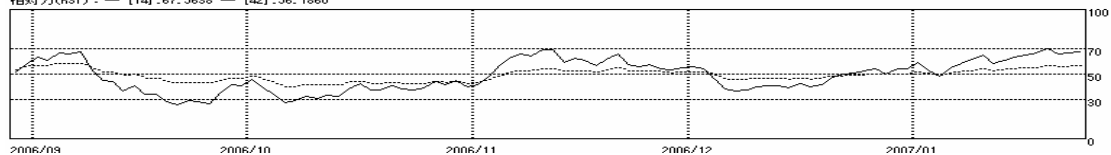
2007年01月29日号

【白金】
押し目買い継続

東京白金 日足 先限:07/12 表示期間:(2006/08/30~2007/01/26)
 2007/01/26 始値:4,488 高値:4,496 安値:4,473 終値:4,481 前日比:+19 出来高:7,488
 四本値表示 移動平均: — [6]:4,456 — [12]:4,407



相対力(RSI): — [14]:67.5638 — [42]:56.1860



◆海外情勢

昨年終盤、ロシアは白金族の輸出ライセンスの発行を見送り、ようやく市況は下支えされた。ノリリスク・ニッケルは輸出ライセンスの署名遅れにより、1月中のプラチナ、ロジウム、ルテニウムの輸出ができない状況であったが、2月中についてもまだ不透明である。トラブルで停止していたロンミンの鉱山が停止期間を更に大幅延長しており、長期契約交渉でも強材料として取り沙汰されそうである。

◆内部要因

ニューヨーク市場は安値で実需買いが増加、当業者のカバーが進んでいる。一方、他商品を眺めたファンド系の売りが増えているが、銅や亜鉛、ニッケル関連の株価が相次いで底入れ～反発してきていることもあり、欧州市場での売り圧力は軽減されている。アジア時間指標の東京白金は引き続き、海外勢は新規に売ること余りなく、売り圧力はさほど強くはない。ただ、ユーロ高・円高という展開となった時点での海外勢の動きには注意。

◆総合分析

東京白金は上値抵抗線を難なく突破した。12月安値からのドル建てプラチナ価格の緩やかな立ち上がり、ユーロ・ループルの動きに酷似しはじめており、相場としてはかなり正常化してきたなかでの健全な上昇と解釈できる。アジア時間でも香港勢などや買い遅れていたアジア勢の実需が支えた安値から立ち上がってきたことは好感できる。あとは高値でも追随買いが出てくることを確認しながらの相場展開が望ましい。

このレポートは情報提供を目的としています。売買の判断はお客様ご自身で行って下さい。

CS-0881

岡地株式会社

●編集・営業企画部

〒103-0018 東京都中央区日本橋小網町12-5 TEL. (03)3687-7511代

HOTLINE

2007年01月29日号

【ガソリン】 上下波乱ながら弱気有利か

東京ガソリン 日足 先限:07/08 表示期間:(2006/08/30~2007/01/26)
2007/01/26 始値:55,990 高値:56,440 安値:55,930 終値:56,260 前日比:+240 出来高:12,747
四本値表示 移動平均: — [6]:55,145 — [12]:54,806



◆海外情勢

ニューヨーク原油が50ドル割れを演じ、基調の弱さを示した。強材料が少ないうえ、大型資金が離脱しているため、ファンドの売り越しが示すように先安懸念が強い。原油が下落すれば東京ガソリンも追随安となる。戻り売りムードが浸透して下値を試すことになろう。底を確認するのに手間取りそうで強気になりにくい。

◆内部要因

2月限は安納会となり、現物の荷もたれで基調の弱さを露呈した。期近限月が下げ、期先の足を引っ張ることになりそう。期先は高値から転落して反発へ転じても3分の1戻りが精一杯で非力さを感じる。原油次第の動きであるが、原油相場が戻っても追随する力は弱い。逆に下げに対しては過剰に反応するパターンを想定する必要がある。

◆総合分析

内部要因、テクニカルともに弱気がリードする展開が見込まれる。ガソリンの販売量は伸びず、卸値引き上げのタイミングも失っているため業転市況も軟弱地合を余儀なくされている。輸出拡大で現物の需給改善を図るにしても、在庫調整に時間がかかりそう。原油相場が崩れると無抵抗で下げることになるだろう。中東情勢の緊迫化など突発材料で基調が変化することはあろうが多くを望めない。目先は上下波乱。

このレポートは情報提供を目的としています。売買の判断はお客様ご自身で行って下さい。

CS 0881

2007年01月29日号

【コーン】 押し目買いで対処

東京コーン 日足 先限:08/01 表示期間:(2006/08/30~2007/01/26)
2007/01/26 始値:27,100 高値:27,100 安値:27,070 終値:27,070 前日比:+110 出来高:2,755
四本値表示 移動平均: — [6]:27,148 — [12]:26,641



◆ 海外市場

注目材料はブッシュ米大統領の一般教書演説、エネルギー政策がどう打ち出されるかがポイントだった。今後10年間で米国のガソリン消費を20%削減、15%はバイオ燃料の生産拡大、5%は燃費向上で節約という方針を打ち出した。バイオ燃料の生産目標は2017年までに350億ガロンというもので、全量トウモロコシに依存すると130億b u sが必要になる計算だ。もちろん、トウモロコシだけでは補えないため、木屑や草、トウモロコシの茎などを原料にする必要はあるが、これらをエタノール製品にする技術はまだ遅れており実用化には時間がかかるという。従って、エタノール向けはまだまだトウモロコシが主流で、今後、米農務省が発表するベースライン（予算獲得のため、長期的な需給予想を策定）、3月1～2日の農業観測会議における需給予測でエタノール向け需要や作付面積がどのような数字になるかが注目される。

◆ 国内市場

東京トウモロコシ先限は、需給ひっ迫を軸に、①円安、②一般教書のエネルギー政策への期待、③海上運賃が底入れから反発・・・を材料に24日に2万8000円を上抜いた。一般教書が発表されると『事実確認』の売りに下押したが、チャートを見ると先限の2万6000円近辺が支持線となる。値頃が値頃だけに新規に買いにくいという見られがちだが、相場の流れを大きく変えるような材料は見当たらず、押し目買いで対処したい。

OKACHI

WEEKLY HOTLINE

2007年01月29日号

【ゴム】 期近主導で上伸

東京ゴム 日足 先限:07/07 表示期間:(2006/08/30~2007/01/26)
2007/01/26 始値:281.6 高値:284.4 安値:280.6 終値:283.4 前日比:+5.1 出来高:30,689
四本値表示 移動平均: — [6]:274.0 — [12]:268.1



◆ファンダメンタルズ

【産地】産地での供給に特に問題はない模様。セントラルマーケット集荷量も順調であり、また、定期市場の堅調な値動きにつれて原料価格は70.00パーツ台へのせた。原料は71.62パーツ、オファーは2月積222.0セント（円換算約278.9円）で取引されている。

【在庫】1月10日現在、全国生ゴム営業倉庫在庫は59トン減の14,279トンとなった。

【納会】1月限納会は263.5円で258枚（10トンベース）の受渡しとなった。海外当業者の受渡しが目立つ内容となった。

◆展開予想

今週の東京ゴム市場は地合いの強さを背景に続伸となった。19日の下落を押し目とし、22日の週初めから上値を追う展開となり、先限は280円台を超えて新高値を付ける結果となった。210.0円前後から押し目らしい押しを形成することなく、上伸してきており、買われすぎな状況下での調整の下げは確実に買い拾われる展開となっている。また、今月の品質検査請求で過去に例を見ないほどの件数が不合格となったことから期近限月が確りしており、相場全体を底堅くする要因となっている。今後は新甫限月の7月限にファンドの買い玉の乗換えが行われるため、目先大幅に下落することは考え難い。また、上値では抵抗らしい抵抗がないため、今後は290.0円、300.0円という節目を追う展開が予想される。現在の地合いは非常に強い。売りで仕掛けるのにはリスクが高いと見る。押し目は拾いたい。押し目買いで対処。（海外事業部）

このレポートは情報提供を目的としています。売買の判断はお客様ご自身で行って下さい。

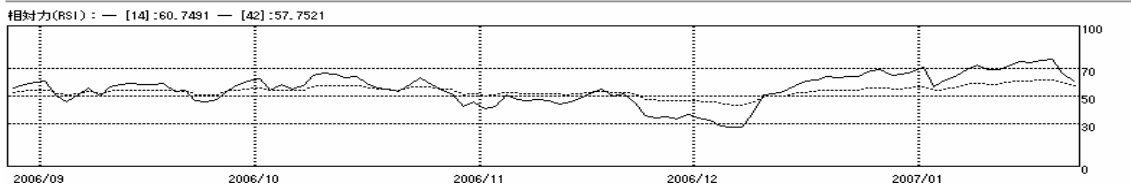
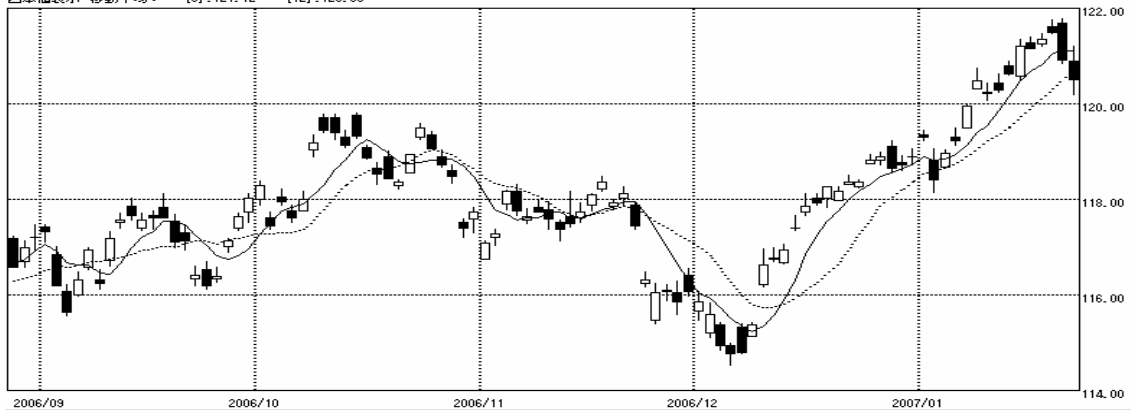
CS 0881

岡地株式会社 ●編集・営業企画部
 〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町12-5 TEL.(03)3657-7511代

2007年01月29日号

【為替】 円安模様か

東京為替 (円/ドル) 日足 表示期間:(2006/08/29~2007/01/25)
2007/01/25 始値:120.89 高値:121.21 安値:120.19 終値:120.53 前日比:-0.40 出来高:----
四本値表示 移動平均: — [6]:121.12 — [12]:120.63



◆チャート分析

過去10年、2月の値動きをみると、円高5回、円安5回でイーブン。基調転換例は02年。99年11月の101円台から円安が進み、02年2月1日の135円台を経て円高に転換、04年12月には101円台まで上昇するなど、“往来相場”を演じた。この間の日柄は円安が2年3ヵ月、円高が2年10ヵ月。

◆内部要因

ブッシュ米大統領の一般教書演説によると、①イラク新政策は成功への最善策、②対テロ戦争に関する超党派の特別諮問評議会設置、③5年間で陸軍・海兵隊9万2,000人の兵力増強、④イラン核開発に警告、⑤今後10年間で国内のガソリン消費を20%削減、⑥自動車燃費規制の強化、⑦包括的な移民制度改革、⑧増税なき財政赤字の解消…などとしている。イラク新政策や兵力増強はともに財政を圧迫する。赤字解消はほど遠いといえる。

◆総合分析

ニューヨーク・ダウが最高値、日経平均株価は6年半ぶり高値、円相場は4年1ヵ月ぶりの円安水準。株高・ドル高の流れは変わっていない。最近の原油安で消費者物価が小幅の上昇にとどまる可能性があり、その場合は利上げの前提が崩れ、円安が加速する(アナリスト)という。120~122円。

このレポートは情報提供を目的としています。売買の判断はお客様ご自身で行って下さい。

CS 0881